受付番号 1-05

様式4 助成事業実施報告書

2024 年 4 月 10 日

2023 年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 NPO 法人農の未来ネット

代表者・役職名 氏名 理事長 鈴木宣弘

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

農作業体験等による大学生の就農活動支援の充実、食育活動を通じた都市型農業への理解醸成の推進

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動があります場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

わが国の農業は、農業就業人口の減少と高齢化が進展し、担い手の育成・確保が喫緊な課題となっています。NPO 法人農の未来ネットは、食料自給率向上を目指しつつ、農業経営の担い手を積極的に支援するとともに、農業の重要性の理解促進と新たに就農を望む人の掘り起こし運動を行うことによって、元気農業・いきいき農村、国内農産物の消費拡大の実現に寄与するため、農林水産省元職員、大学関係者、生産者、消費者が一体となって 2009 年 3 月に設立しています。会員 43 名。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

農業は、食の根幹を支える基幹産業でありますが、農業従事者の高齢化、後継者不足による農業従事者の減少が大きな問題となっています。

近年は農業にあこがれを持つ学生も多く、農学部へ進学する学生は多い。しかしながら、農業を行うには、土地、施設・機械など莫大な経費が必要でありますことから、新規就農者の多くは農家の子息であり、近年は農業生産法人に就職して就農するケースもありますが、都市型農業はそのほとんどが個人経営であり、非農家出身の学生の就農には大きなハードルとなっています。

就農希望者を研修する仕組みは地方自治体を中心に研修・実習制度はありますが、就農予定者への技術的な研修が中心で、非農家出身の都会の大学生が農業を経験する場は少ない。また、首都圏の大学が農場を所有するケースはほぼなく、農業を経験できる場は少ない。

農の未来ネットでは、農家に直接依頼し、大学生の農作業体験を受け入れているほか、農家と農業経営に関する意見交換も実施しています。これまでに農作業経験者から就農した者は1名にすぎないが、農業関係団体への就農者は数人出ています。本事業では、より多くの

受付番号 1－05

学生に経験をしてもらうため、受け入れ大学を増やすこと、学生同士、学生と生産者（受け入れ農家）との情報交換会の開催、就農等の学習会・講演会の設定などより多くの学生により実際に近い形での農業を経験することで就農支援を行うものです。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可） 300文字程度まで

プロジェクトの名称に掲げた「農作業体験等による大学生の就農活動支援の充実、食育活動を通じた都市型農業への理解醸成の推進プロジェクト」を実施するため、以下の事業を行う

１　就農支援プロジェクト
①参加大学生を増やすための参加大学の募集
②　栽培管理等の農作業体験の実施
③協力農家と学生の意見交換会の開催
④収穫祭の開催
２　イベントで食育支援プロジェクト
①農作業体験機会の拡充
②イベント参加者同士の意見交換会の開催
３　情報発信の強化
①就農等に関する講演会の開催
②ＨＰの充実

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPUCT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

参加大学生を増やすため、品川区が運営するパートナーシップ協議会（6 大学参加）に対し、立正大学研究推進・地域連携課の協力を得て連携を要請し、具体的には３月に行ったジャガイモ種まきイベント参加を呼び掛けました。大学からの参加者はなかったが、引き続き連携していくことにしました。農作業体験では、清瀬市内に畑 1000 ㎡を都市農地の貸借の円滑化に関する法律により借地することができ、立正大学、立教大学の学生が年間作付け計画を作りから栽培管理する体験の場を設けることができました。借地手続きの関係から具体的な取組は次年度からとなってしまいました。食育支援プロジェクトでは、田植え体験（5 月）、畑で焼きネギ食べるべぇイベント（12 月）など年５回イベントを行い、子供たちの食育に貢献し、田植えイベントでは学生が多数参加しました。イベントには今回購入したテントが大いに役立っています。講演会は、“これでよいのか！日本の食料”をテーマに開催し、講師３名が登壇して深刻化する日本の食料・農業危機や持続可能な農業の方向性と有機農業の到達点と今後の課題等について講演を開催しました。多くの参加者から感想が寄せられ、日本農業の危機に対する行動を起こす契機となりました。

受付番号 1-05

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

新たに農地の借地ができたことで、学生自らが営農（作物選定、栽培管理、収獲・提供）を一貫して行える環境が整い、これまでの単なる収獲等の農業体験ではなく自ら作物と向き合って農業を経験し、農業の困難さと楽しさを存分に体感でき就農への道が大きく前進しました。この農場から農の未来ネットが目指す就農者の誕生を期待したいです。また、当法人で保持していなかったテントを整えることができ、テントを各種イベントに活用しつつ、参加者の増大を図り、食育に力を入れていきます。

7. 参考資料

1．農の未来ネット機関紙　161 号、166 号、167 号、170 号	参考資料あり ・ 特になし

２０２３年１２月１７日（焼きネギを食べるべぇ）

2023 年 11 月 5 日（サツマイモ掘り）